

# 障がい者避難所体験

～避難所体験から見えてきたこと～



横浜市西区社会福祉協議会  
障がい福祉関係分科会

平成22年3月

# はじめに

## 「防災」は障がい者と地域を結ぶきっかけづくり

地域社会はバリアフリー化やサービスの充実が進み、車いすでも一人で外出ができたり、近所の人に頼まなくてもヘルパーに雨戸を開けてもらえるようになりました。

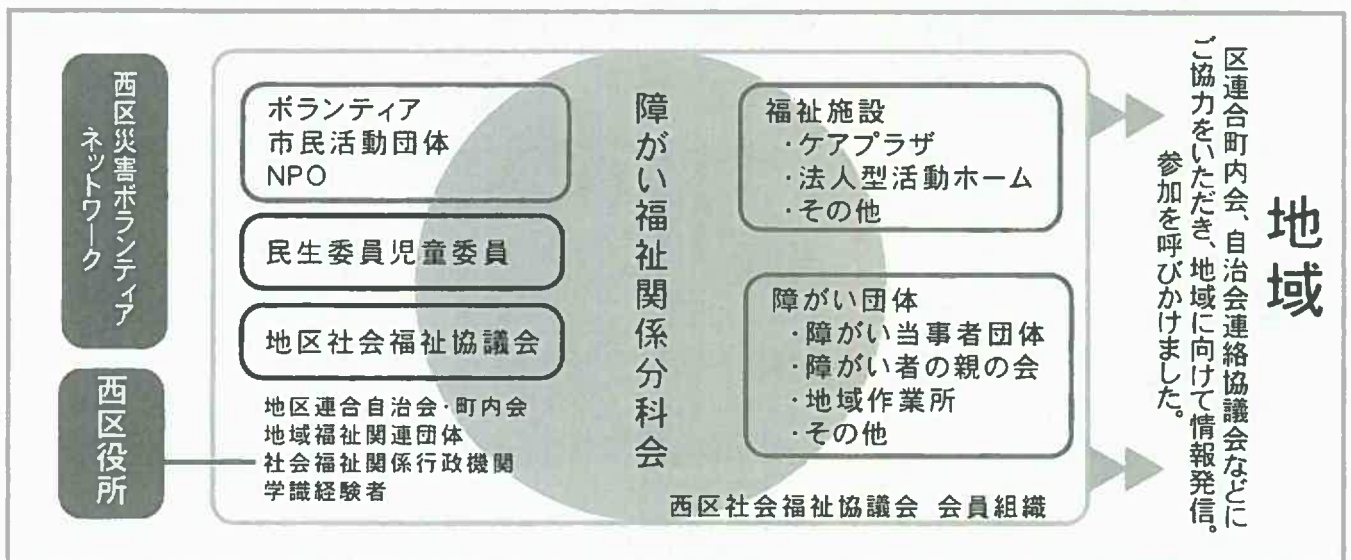
このように障がい者の日常生活は充実してきたように見えますが、地域とのかかわりは希薄になっているように感じます。『災害の時もっとも頼りになるのは近所の方たち』と聞いているので、実際に災害が起こったら障がい者はどうなるだろうと不安を感じていました。

今回の「障がい者避難所体験」は、「防災」をキーワードに顔と顔がつながる出会いの場や、障がい者の生活の配慮を地域の方々と一緒に考える機会にすることができました。この取組みの中で得られた貴重な体験・情報や、以前に発行した「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を地域防災訓練等に取り入れていただけたら幸いです。

障がい福祉関係分科会 会長 深野 博子

## 障がい福祉関係分科会と取組みの体制・これまでの取組み

障がい福祉関係分科会とは、西区社会福祉協議会に設置されている課題別分科会のひとつで、障がい福祉について考えたり、事業を実施しています。参加団体は、主体的に、自由意志で参加をしています。



平成15～16年度 平成17年度	第1期西区地域福祉保健計画策定 ○福祉保健計画リーディング事業 「災害にサポートが必要な人への支援のためのガイドライン」作成
平成18年度	○災害シンポジウム、井戸端会議の開催 ○井戸端会議の開催、災害シンポジウムの開催(6月、10月、1月)
平成19年度	○地域の避難訓練への参加(9月) ○地域の避難訓練への参加(9月) ○井戸端会議の開催(11月)
平成17～19年度 平成20年度	西区「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」を作成 西区災害対策協議会 ・事業計画に「障害者、ボランティアの訓練参加促進」と記載 防災拠点管理運営委員会連絡協議会 ・西区「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」配布

# 平成21年度の取組み

私たち、障がい者、障がい者の家族、支える人たちは、災害時にどうすればよいのかを考えるために、3回の井戸端会議（講演会・意見交換等）、そして避難所体験を行いました。平成15年度以降、取り組んできたことをさらに具体的に考える機会となりました。

障がい者・支える人たちだけでなく、区や社協、地域も一緒になって「協働」できたことは大きな成果でした。

## 第1回井戸端会議

日時：平成21年9月15日（火）15：00～17：30

会場：生活創造空間にし 5階食堂

（プログラム）

（1）講演「どうしたらいいの？もしものときの私たち  
～震災時への防災意識と現状、そして行動～」

講師 NPO法人ゆめ風基金 理事 八幡隆司氏

（2）障がい別に学ぶ 西区「災害時にサポートが必要な人のための支援マニュアル」

（3）グループディスカッション

51名  
参加



## 第2回井戸端会議

日時：平成21年10月13日（火）15：15～17：45

会場：戸部本町地域ケアプラザ 2階多目的ホール

（プログラム）

（1）講演1「災害時の避難生活～新潟県中越沖地震の派遣活動から～」

講師 磯子区福祉保健課 健康づくり係長（保健師）菅野美穂氏

講演2「西区の現状（被害想定・特別避難場所・備蓄など）について」

講師 西区総務課 羽根田政幸氏

（2）グループディスカッション

50名  
参加



## 第3回井戸端会議

日時：平成21年11月25日（水）10：00～11：30

会場：西区保健福祉活動拠点フクシア 多目的研修室

（プログラム）

（1）避難所体験実施の報告

（2）グループディスカッション

48名  
参加



※詳細については報告書をご覧ください。

# 障がい者避難所体験

災害時にはまず「自分で自分の身を守る」自助が一番大事であり、次に知り合いをつくること（共助）の重要性を学びました。知り合うためのきっかけづくりとして、障がい者・家族・支援者・そして地域の方々と一緒に取り組む「障がい者避難所体験」を実施することになりました。

## 『避難所ってどんなもの？

避難したときのために確認しておきたいこと』

平成21年11月14日（土）10：00～15：00

西前小学校体育館

85名  
参加

（参加者）

○障がい者、地区社協、自治会・町内会、民生委員、災害ボランティアネットワークなど

（内容）

- 避難所での障がい者の受付体験
- 個人に割り当てられるスペースの体験
- 手足の不自由さの疑似体験
- 車いすの体験
- 避難所のトイレ体験
- 避難所での情報伝達体験
- 防災グッズ等の展示



## 気づいたこと

- 聴覚障がいの方  
避難所内でのアナウンスが聞こえないので、貼紙などの文字情報が必要です。
- 視覚障がいの方  
避難所内の掲示物が見えないので、「声」「音」がたよりになります。  
「あそこ」「ここ」という指示語ではなく、具体的な説明が必要です。
- 精神障がいの方  
大きな音やざわついた雰囲気では「パニック」になりやすくなります。  
知っている人が身近にいと少し落ち着きます。
- 知的障がいの方  
一緒にいてくれる人がいると安心できます。  
受付では代筆のサポートがあるとスムーズになります。
- 身体障がいの方  
受付で介助者が記入する間、本人を見ていてくれる人がいると安心できます。
- その他  
食べ物について、カロリー制限のある方やアレルギーをお持ちの方への配慮も考える必要があります。

# 障がい者避難所体験の内容～その1～

## 避難所の受付

体育館入り口付近に、「受付」をつくりました。「支援が必要な人」「支援ができる人」をそれぞれ記入シートに書いてもらい、受付をしました。混み合ってしまったが、そこから様々な気づきがありました。

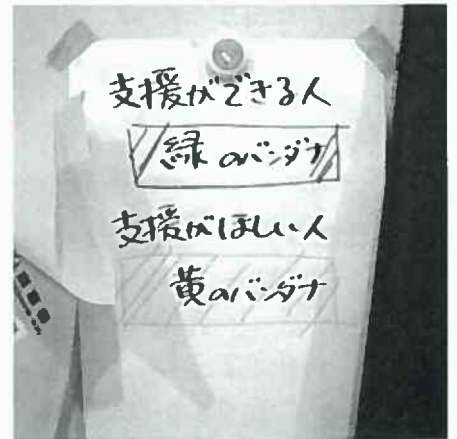


### 参加者の声

- マイクや拡声器の音が聞きづらかった。
- バンダナを巻くのがひとりではできない場合があるので、お手伝いをお願いします。
- 受付は必ず混乱する場所なので、スムーズにする工夫が必要だと思いました。

### 黄色と緑のバンダナ

横浜市では、災害時に「支援してほしい」＝「黄色」、「支援できる」＝「緑色」をサインとしてバンダナをつけよう、という取り組みをすすめています。

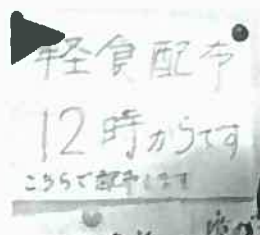


## 避難所での情報伝達体験

体育館の一部で、食べ物の配布の呼びかけをしました。呼びかけを聞き逃した方や聴覚障がいの方のために、ホワイトボードへの掲示もしました。

### 参加者の声

「取りに来てください」という呼びかけだけでなく、声をかけながら配ることや、一緒にとりにいける人がいると、不安が解消できることがわかりました。



# 障がい者避難所体験の内容～その2～

## 手足の不自由さの疑似体験／車いすの体験

ひじ、ひざのサポーターや重り、手袋などをつけることで、手足の不自由さを疑似体験して動いてみました。そばにいて、ちょっとお手伝いしてくれる人がいることで安心できることがわかりました。

階段の上り下りをしてみると、手すりの有無や支える人の位置の違いが、大きく動きやすさに影響することがわかりました。

また、車いすに乗ることや押すこと、車いすを階上に上げるにはどうしたらいいのかを体験しました。



### 参加者の声

色々な不自由さを感じ、大変さを感じた中からサポートへの心得を学べたのではないかと思います。



## 個人に割り当てられるスペースの体験

段ボールとガムテープを使って、一般的に避難所で、一人一人に割り当てられるスペース（一畳分）をつくりました。支える人が近くにいないと動きづらく、床の音は予想以上に響きました。

障がいによっては、介護用の医療機器に電源が必要な方がいたり、つたっていける壁側・移動しやすい通路側がよいということがわかりました。また、車いすの方にはもっと広いスペースが必要なことがわかりました。

このように配慮が必要な方々には、別教室を確保できるとよいのかもしれない。



### 参加者の声

- 本当に狭いスペースに驚きました。  
気の合う人と一緒ならともかく、見知らぬ人とでは落ち着かないと思いました。
- 床が冷たく、足が悪いので立ち上がりが難しかったです。
- 車いすの利用者なので、自分だけ広いスペースを使うとしたら、周囲の方に気兼ねしてしまうと思いました。



# 障がい者避難所体験の内容～その3～

## 避難所のトイレ体験

実際に、車いすに乗って、トイレに入ってみました。

ぎりぎり1台が通れる程度の幅しかなく、車いすが入ると他の方が利用できなくなってしまいます。車いすを回すスペースや手すりも必要ということに気がつきました。

### 参加者の声

- あまりにトイレが狭いのでびっくりしました。体験できたのはよかったです。
- トイレや階段などももう少し手すりがあると良いなと思いました。



## 防災グッズ等の展示

西区役所総務課の協力で、防災に関する情報、非常持ち出し袋の中身などを紹介しました。体験の待ち時間など参加者で防災について話す機会になりました。

### 参加者の声

障がい者がそのまま使える設備や備品が少ないと思いました。

## 全体を通じた参加者の声

- 障がい者の方々と日頃よりお近づきになっている事が大事。
- 地域でもっと何回も実行してもらいたい。
- 思っていたことと実体験にギャップがあり体験する事が出来てよかった。
- 参加する中でいろんな方がいることに気がついたと話された方がいた。いろんな立場でいろんなことに困ることがあるということがわかった。自分と違う障がいの方を知ることができる。
- もっと勉強しないとわからないのではないかと不安を感じた。
- 「私たちに何か手伝えることはありませんか？」と声を掛けてくれた方がいました。今まで子どものことを手伝ってもらうなんて考えた事はありませんでした。でもその言葉で、地域と関わることの大切さに気づきました。

## 地域の方々へ

3 回行った井戸端会議、避難所体験を通じて、多くの気づきがありました。  
災害時に困ったりしないためには、自分自身で備えをしておく必要があります。  
その次には、近所にどれだけ自分を知っている人がいるかということが、とても大切なことにあらためて気づきました。

そこで、私たちは、日頃からの地域の方々との関わりを大切にしていきたいと考えています。

## 『地域の活動に参加していきます』

地域には障がい者が暮らしていますが、地域との関わり方は様々です。

災害時に障がい者が「避難すること」、「避難所で暮らすこと」、「自宅に残って暮らすこと」には、地域の支えやお手伝いが必要です。まず、地域で暮らす障がい者やその家族を知っていただくため、地域の催しや防災訓練などに積極的に参加していきます。

## 『私たちから出会いの場をつくります』

私たち(西区社協 障がい福祉関係分科会)はこれまで様々な形で地域の方との出会いの場をつくってきました。

今後も、日頃から地域の方と障がい者とが接点をもてるように、今回の『障がい者避難所体験』のような出会いの場をつくります。

私たちから地域の方へお声をかけていきますので、その時にはぜひご参加ください。



【連絡先】 社会福祉法人横浜市西区社会福祉協議会 障がい福祉関係分科会  
〒220-0011 横浜市西区高島二丁目7番1号 ファーストプレイス横浜3階  
電話：045-450-5005 ファックス：045-451-3131  
e-mail：nishisha@r5.dion.ne.jp URL：http://www.yoko-nishishakyo.jp/

この事業は、赤い羽根共同募金の配分金を使って実施しました。